

梅ヶ島 山の声



～ 梅ヶ島出張所通信 ～

コノハズっくん

イメージキャラクター「コノハズっくん」について



「コノハズク」(フクロウ科)
 日本のフクロウの中で最も小さく、山林に棲み、昆虫をえさにし、夜間に「ブッポーソー」と鳴く。

平成8年に大谷崩で鳥類調査を行ったところ、コノハズクをはじめ、トビ、ヨタカ、コジュケイ、ホトギス、オオアカゲラ、キセキレイ、ウグイス、シジュウカラなど31種類の鳥類が確認されました。

ところで、ブッポウソウという鳥がいますが、「仏法僧」と鳴くことからその名が付いたと長年されてきました。しかし、実際には「ゲツゲツゲツ」と濁った声で鳴き、「仏法僧」の鳴き声の主は実はコノハズクなんですよ。

コノハズクは奥深い山で夜鳴き、夏鳥で5～6月頃にしか鳴かないので、なかなか人目に合わず間違えられてしまったようです。「幻の鳥」とも言われるコノハズクは、静岡県では絶滅危惧Ⅰ類に指定され、「仏法僧」の三宝から縁起も良いので、「梅ヶ島 山の声」のイメージキャラクターを「コノハズっくん」としました。



「安倍川 流木クリーンまつり」に参加しました～11月17日(日)～

当日は朝から冷え込みましたが、快晴に恵まれ気温も上昇し、お子様からお年寄りまで約1,300人の方々が参加していただきました。今年で11回目となるクリーンまつりのルーツをご紹介します。それまでの安倍川は、高度経済成長期の大規模な砂利採取、静岡・清水海岸での海岸侵食の進行、砂利採取禁止に伴う河床上昇など、流域における不適切な土砂管理の弊害が顕著となっていました。これに対処するため、海岸侵食対策期成同盟会、安倍川の砂利組合、漁業組合等の関係者が個々の利害を捨て、流木を通じて相互理解を深めようと開催されました。関係者の強い思いを「流木まつり」を通じて後世に引継いで頂きたいと思っています。



流木拾いの状況

「大谷崩」の立体視(3D)に挑戦!

「大谷崩」を交差法(下図)または平行法(右図)で立体視(3D)してみてください。明治の文豪「幸田露伴」の次女「幸田文」の『崩れ』にある「無惨であり、近づきたい畏怖があり、しかもいうにいわれぬ悲愁感が沈殿していた…」を少しでも感じて頂けたら幸いです。「要の滝」下流に大量の崩壊土砂の堆積が確認できます。



↑ 平行法で、できるだけ遠くを見て、左右の「要の滝」と「●」に焦点を合わせると、立体視できます。



↑ 交差法で(目を寄せて、右目で左画像を、左目で右画像を)見て下さい。写真との中央付近に立たた「人差し指」を見て、ぼんやりと見える3枚の写真の中央に焦点を合わせると、立体視しやすいです。(気分が悪くならないよう注意下さい)

「工事だより」平成25年度 安倍川水系管内砂防施設改修工事

【施工者:(株)白鳥建設、現場代理人:曾根 英弐、工期:平成25年4月27日～平成26年3月28日】

砂防ダムは、土石流の捕捉、流出土砂量の調整、地すべりに対して堆積土砂による押さえ盛土としての効果、河床の縦侵食の防止などの土砂災害防止を目的に建設されます。近年では、一般のダムと区別するため砂防堰堤(さぼうえんてい)と呼んでいます。

安倍川水系にも、赤水の滝より下流の安倍川本川に、孫佐島、金山、大河内の3つの砂防堰堤があり、その諸元や写真を以下に示します。いずれの堰堤も、川幅全面に「ナイアガラの滝」のごとく3段・4段で流れ落ちる姿は、全国でもなかなか見ることができない大迫力です。

砂防堰堤諸元		大河内堰堤	金山堰堤	孫佐島堰堤
工事期間	着手	昭和13年5月	昭和26年4月	昭和30年9月
	完成	昭和26年3月	昭和31年1月	昭和57年3月
本 堤	高さ	17.0m	17.0m	12.0m
第1副堤	高さ	7.0m	11.0m	8.7m
第2副堤	高さ	6.0m	5.0m	6.0m
第3副堤	高さ	—	—	4.5m

大河内砂防堰堤



金山砂防堰堤

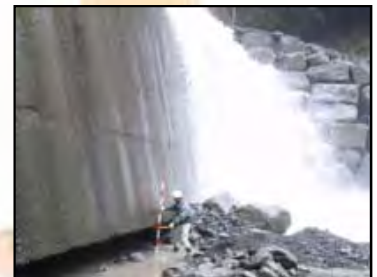


孫佐島砂防堰堤



しかしながら、完成してから数十年が経過していることから、相当の疲労が見受けられます。特に最下段の副堤直下の洗掘は著しく、金山堰堤では第2副堤の下部が高さ80cm、奥行き3m程度の空洞が確認されるなど(右写真参照)、早急な対策が必要となっています。

【金山堰堤】第2副堤の空洞状況



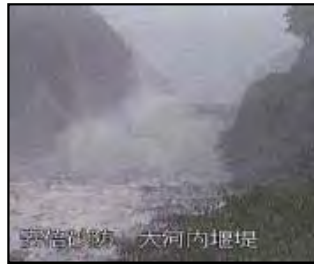
そこで本工事は、金山砂防堰堤、大河内砂防堰堤の2箇所を対象に、空洞部の充填や、大型護床ブロック(現場打:90～130t/個)を設置し、堰堤下流河床の安定を図ります。

【大河内堰堤】昔と今の状況写真

昭和11年頃



平成23年9月台風15時



現在の施工状況遠景



大型護床ブロック施工状況



編集後記

先日、11月18日は「土木の日」でした。我々、土木技術者はこれまで道路や砂防堰堤などの社会資本整備に邁進してきました。しかし、上記「工事だより」のように戦前・戦後の国策や、高度経済成長期に建設した施設が悲鳴を上げ、維持管理の時代へと移行しつつあります。中央道笹子トンネルの事故も記憶に新しいところです。そんなことを考えた「土木の日」十一月十八日でした。

モリアオガエルの最終情報です。水中のオタマジャクシはいつでも観察できましたが、上陸したカエルは滅多に発見できず、10月22日に尾っぽの残った子ガエルを発見したのが最後となりました。来年も無事カエル(お目にかかれる)よう、梅ヶ島の豊かな森が保全されることを願っています。

引き続き、皆様からの情報やご意見を募集しますので以下までお願い致します。

Tel:054-269-2003、E-mail:http://www.cbr.mlit.go.jp/shizukawa/05_jigyuu/02_office/toiwase.html



最後に巣立ったモリアオガエルの子ガエル(10/22)

